



規格外野菜の販売体験を通じて お金や商品の大切さを学ぶ(2)

今井 一馬 Imai Kazuma 東京都武蔵村山市立第十小学校 副校長
岐阜県でICT関連の業務に10年ほど就業後、東京都の教員に転職。社会科や総合的な学習の時間を中心に実践を積む。現在は管理職として、学校と地域との橋渡し役を担う

前号^{*1}では、本校の6年生が総合的な学習の時間で「食品ロス」について学ぶ過程で、地域の農産物のロスに気づき、その課題解決に向けた規格外野菜の販売準備について紹介しました。

今号では、2022年7月の「十小夏まつり」で行った販売体験当日から、その後の活動の発展について紹介します。

規格外野菜の販売体験当日

①朝早くからの開店準備

当日は、早朝に収穫された野菜が、地域の協力農家から届けられました。開店に向けて、朝7時頃から6年生全員で袋詰めに取りかかりました。社会の授業などで、農家の朝の早さと忙しさは知っていましたが、実際に体験するとより理解が深まりました。新鮮な野菜を素早く消費者に届けるためには、こんな努力や工夫があることを、作業を通して学ぶことができました。これは教科書では学ぶことができない、貴重な体験でした。

開店準備が終わり、最終的に店頭に並んだ野菜は次の9種類でした。

- ・じゃがいも
- ・玉ねぎ
- ・かぶ
- ・かぼちゃ
- ・ピーマン
- ・長ねぎ
- ・トマト
- ・きゅうり
- ・キャベツ

②販売体験スタート

いよいよ販売開始時刻となりました。今回の行事では、買い手は保護者のみに限定しました。

写真1 販売ブースに続々と集まる保護者



写真2 大型ディスプレイを用いて規格外野菜の説明をする児童

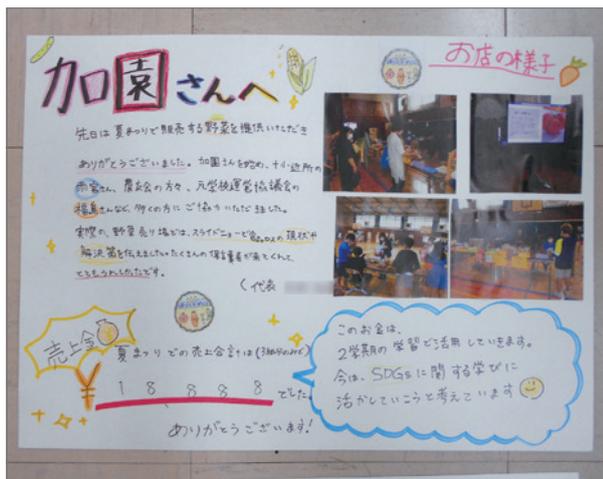


最初のうちは、保護者もようすをうかがっていましたが、児童の呼び込みにも誘われて、続々と来店するようになりました(写真1)。

販売ブースでは、規格外野菜の現状を知ってもらうために大型ディスプレイでプレゼンテーションを行ったり(写真2)、その野菜をおいし

*1 ウェブ版「国民生活」2023年6月号「消費者教育実践事例集」参照 https://www.kokusen.go.jp/wko/pdf/wko-202306_09.pdf

写真3 児童が農家に送ったメッセージ(一部)



く食べてもらえるように手作りのレシピを添えたりし、付加価値を高める工夫も施しました。

販売を行うなかで、児童は早く売り切れてしまう野菜と、そうではない野菜があることに気がつきました。当時は、玉ねぎの価格が高い時期でしたので、玉ねぎはあっという間に完売となりました。これも教科書では学ぶことが難しい「需要と供給の関係」を、実体験から理解するまたとない機会となりました。

児童はお金のやり取りに関しても、初めはとても緊張していましたが、徐々に慣れてくると「〇〇円いただきましたので、おつりが〇〇円です」などの言葉も自然と出てくるようになり、接客の基礎ができてきました。模擬貨幣ではなく現金を扱ったことで、程よい緊張感に包まれながら、販売体験は盛況のうちに終了時刻を迎えました。

③協力農家への報告と感謝

体験を終えた児童は、野菜を提供してくださった農家に対し、売上金額などの報告と感謝のメッセージを送りました(写真3)。

そこには、主に次のような感想が書かれていました。

- 商品の準備はとても忙しく、それをやっていらっしゃる農家の皆さんをととても尊敬してい

ます。

- 私は、呼び込みをしました。たくさんのお客さんに聞こえるような声で、呼び込むことを心がけました。
- 私は、規格外野菜のロスについて説明するプレゼン役でしたが、食品ロスについてとても詳しくなれました。
- 私は、レジでの接客を初めて経験しました。お客さんがたくさん来て、大変でしたが、完売したのでうれしかったです。
- この体験を通して、恥ずかしがらずに人に話しかけられるようになりました。
- この販売体験で、お店のやり方や話しかける大切さなどを学びました。
- ぼくの将来の夢は、お店を開くことなので、そのために必要な体験をすることができました。
- 私のお母さんが、私のお店のキャベツを買って帰りました。その夜、食べてみましたが、とてもおいしかったです。

これらの感想からは、食品ロスや規格外野菜への理解にとどまらず、消費者教育や金融教育、さらには地域の課題を解決するためのアントレプレナーシップ*2など、多くの成果があったことがうかがえます。

今後の展開

今年度(2023年度)も、「十小夏まつり」を7月に開催します。

今年度は、農作物を作る段階からかかわることで、さらに地域野菜への理解を深めていく予定です。児童が地域の「地産地消」について、体験を通して学んでいくことで、消費に対する意識が変わり、それによる行動の変化が食品ロス削減につながります。

今後も、地球規模の課題に対して、地域を中心に調査したり、活動したりすることで、未来を切り拓く児童を育成していきます。

*2 企業家精神または起業家精神。新しい事業の創造意欲に燃え、高いリスクに果敢に挑む姿勢